

学校みどりの日

好天に恵まれた18日（金）、聖高原まで片道約6kmの善光寺街道を1年生から6年生までが無事に歩き抜くことができました。低学年児童にとって、かなり大変な山道です。後半では、上の学年の子が低学年の子の荷物を持ってあげる姿、手を引いたり後ろから手を添えて押ししたりして支える姿があちらこちらで見られました。お互いに声を掛け合い励まし合う子どもたちの姿から、

今年もいただいた応援メッセージ



頼りになるお兄さんお姉さん

程よく抵抗感のある山道に、縦割りグループの友だちとともに取り組むからこそあらわれる良さであることをあらためて感じました。

昼食後のグループ活動も、期待以上の姿を見せてもらうことができました。遊び道具もほとんど使わず、学年の異なる子どもの興味を

持続させながら30分間遊ぶことは、実はとても難しいことであると思うのです。リーダーの6年生はそれぞれに用意してきたゲームを提案して30分間フルに皆に楽しんでもらうことができていました。一つの遊びで30分遊

び切れたグループもありましたし、友だちの様子に合わせて複数の遊びを取り入れていったグループもありました。どちらも相手の様子を見ての柔軟な対応ができていていることの表れです。6年生の皆さんのリーダーシップに感謝します。そして、この姿を見ている他学年の皆さんへの影響がとても



6年生提案によるゲーム

も意味が大きいと思うのです。この6年生のがんばりが、下の学年の子どもたちに引き継がれて麻績の子どもたちのよき伝統になってくれることに大いに期待します。そして、十分に期待できる麻績の子どもたちであると思っていま

す。こうして「学校みどりの日」が、大きな意味のある行事となったことを、今もうれしく思っています。お家の皆様、身支度や持ち物、そしておいしいお弁当のご準備（予備日である今日25日も）等、ありがとうございました。お陰様で子どもたちは、価値のある時間を過ごすことができました。

読書週間終わる 大切なのは…

23日（水）児童集会は、図書委員会の皆さんによる読書週間にかかわる発表でした。学年に応じた「お薦め本」の紹介では、「その先どうなるのだろう」と期待させてくれる物語のやま場一步手前までの紹介や、クイズをまじえた紹介など、本への興味を



高める工夫が盛りだくさんの発表となっていました。さらには、図書委員さんの発表が、どの子もマイクなしで体育館に十分届く張りのある声、そして自信を感じさせる発表で、皆が引き込まれる発表でした。集会が終わり図書委員の皆さんが残って、担当の先生と集会の振り返りをしているときのことです。お互いのがんばりを称え合う拍手を始めると、まだ体育館に残っていた



フレッシュな読み語り①

た高学年の子どもさんや先生方からもそれに合わせて自然に拍手が起こりました。このことから、今回の図書委員の皆さんの発表がどんなに素晴らしかったかが、おわかりいただけることと思います。さらに、発表に使う小道具の

持ち方や発表後の置き

方、ステージ上で足音が立たないように気を遣って移動する姿なども含めて、発表の模範としてふさわしい発表でもありました。

週間中は先生方による「読み語り」や、給食室の先生方のご協力による「お話し献立」等もありました。大切なのは、読書週間



フレッシュな読み語り②

が終わってからも変わらず本に親しむことのできる、一人ひとりの気持ちであると思います。お家の皆様のはたらきかけや励ましも、続けてお願いいたします。